



西目屋村

保存版

防災マップ

〈避難情報の5段階警戒レベル〉

詳細は2ページへ掲載

レベル

5

命の危険 直ちに安全確保！

レベル

4

危険な場所から全員避難

レベル

3

危険な場所から高齢者等は避難

※高齢者等以外の人、必要に応じて自主的に避難

レベル

2

自らの避難行動を確認する

レベル

1

気象情報に注意し、
災害への心構えを高める

必ず目立つ場所に置いてください

確実に避難して、自らの命、家族の命を守るために！

村民の皆様へ

「西目屋村防災マップ」は、国や青森県が公表した津軽ダム下流河川区間について津軽ダム地点で異常洪水防災操作を実施するような規模の降雨による浸水想定区域図、大雨や地震によるため池の決壊を想定した浸水想定区域図、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、火山噴火影響範囲及び指定避難所などの情報を示した総合的なマップです。

水害、土砂災害、および火山災害は、ある程度発生の予測が可能であり、適切な避難行動をとれば、人的被害を最小限に抑えられる災害です。

行政による救援や救助の「公助」だけではなく、村民一人ひとりが、自分の命は自分で守る「自助」、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合う「共助」を常に心がけ、日頃から災害に備えておくことが重要です。

ご家庭や地域で日頃からの備えとして本書を参考にいただき、いざというときに御活用いただければ幸いです。

西 目 屋 村

索引

村民の皆様へ、索引	1
自らの命、家族の命を守るために！	2
風水害対策について	3
洪水ハザード情報について	4
土砂ハザード情報について	5
地震対策	6
わが家の防災対策&チェック	7
マイ・タイムライン	8
避難所・避難場所一覧	9

西目屋村全体図	10
洪水・土砂ハザードマップ	11～20
ため池ハザードマップ	21・22
火山ハザードマップ	23・24
わが家の防災メモ 非常時持出品の準備&チェック	25
災害時の感染症対策	26
防災情報収集方法	裏表紙
災害用伝言ダイヤル	
防災関係機関連絡先・奥付	

自らの命、家族の命を守るために！

適時適切な避難を行うために、家族や地域で確認しましょう。

ステップ ①

自宅や学校・職場には、どのような危険があるのか確認しましょう。

□ハザードマップ（11～24ページ）を見て、災害が起こりやすい場所はないか等、自宅や学校・職場等によく立ち入る場所には、どのような危険があるのか確認しましょう。

□避難場所（9ページ）を確認し、そこまでの経路や移動手段について計画しておきましょう。



ステップ ②

行政機関から提供される警戒レベルについて確認しましょう。

□発令される避難情報等、国や都道府県から提供される防災気象情報には、以下のものがあります。^{※1}

警戒レベル	状況	住民に求める行動	避難情報	防災気象情報
5	災害発生 または切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保 ^{※2} 村が発令	大雨特別警報 氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難！>				
4	災害のおそれ 高い	危険な場所から 全員避難	避難指示 村が発令	土砂災害 警戒情報 氾濫危険情報
3	災害のおそれ あり	危険な場所から 高齢者等は避難 ^{※3}	高齢者等避難 村が発令	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 気象庁が発表	
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 気象庁が発表	

※1 必ずしもこの順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

※2 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。

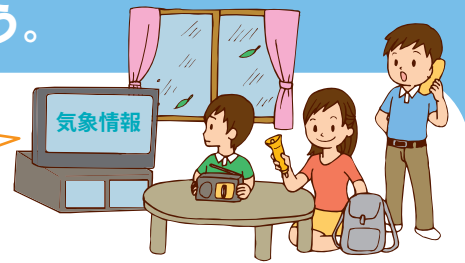
※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の方も、必要に応じて普段の行動を見合わせたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

風水害対策について

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策

まずは、
確実な情報が大事
その次に迅速な対応



特別警報・警報・注意報の発表基準

現象の種類	発表基準		
	特別警報	警報	注意報
大雨	数十年に一度の大雨が予想され、大災害が起こるおそれ著しく高まっている場合	大雨によって重大な浸水害や土砂災害が起こるおそれがあると予想される場合 記録的短時間大雨情報 1時間に雨量90mm ※大雨警報発表時、上記基準に達した場合に発表	大雨によって浸水害や土砂災害が起こるおそれがあると予想される場合
洪水	※全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。	大雨や融雪によって、増水や氾濫により重大な洪水害が発生するおそれがあると予想される場合 ※対象となる重大な洪水害として、河川の増水・氾濫及び堤防の損傷・決壊、並びにこれらによる重大な浸水害があげられる。	大雨や融雪によって、増水により洪水害が発生するおそれがあると予想される場合 ※対象となる洪水害として、河川の増水及び堤防の損傷、並びにこれらによる浸水害があげられる。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
雨の音で話し声が良く聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

局地的大雨と集中豪雨

気象庁の定義によると、「局地的大雨」は単独の積乱雲が急激に発達して降らせる一過性の大雨のことで「ゲリラ豪雨」とも呼ばれることもあります。局地的に数十ミリになります。「集中豪雨」は積乱雲が同じ場所で次々と発達を繰り返し、雨が数時間にわたって降り続く現象です。狭い範囲に数百ミリの雨を降らせます。

その中でも、積乱雲が連続して発生し線状に並びその規模が幅20～50km、長さが50～300kmになるものが「線状降水帯」と呼ばれています。停滞性の線状降水帯は、同じ場所で激しい雨が長時間降り続き、まさにその場所にいる人にとっては経験したことのない大雨となり、甚大な被害をもたらすおそれがあります。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

洪水ハザード情報について

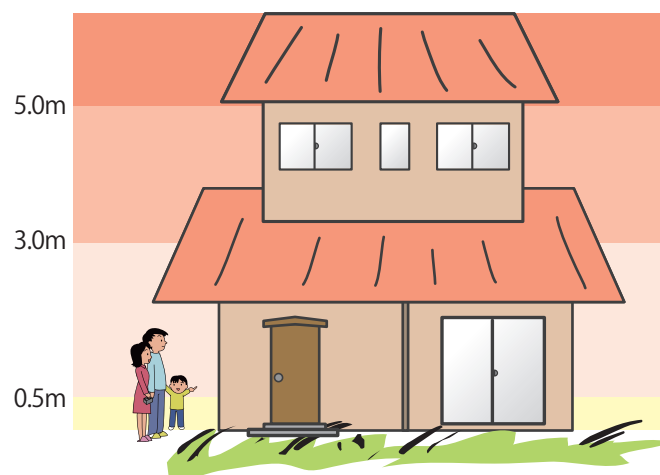
水防法に基づき、洪水ハザード情報をマップに掲載しています。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1

説明

- 「西目屋村防災マップ」に表示している岩木川浸水想定は、津軽ダム下流河川区間について、津軽ダム地点で異常洪水防災操作を実施するような規模の降雨による浸水想定範囲、及び想定される水深を表示したハザード情報です。
- この浸水想定は令和元年 7 月時点の岩木川の河道及びダムの整備状況を勘案して、津軽ダム地点において想定し得る想定最大規模の降雨によるダム下流岩木川の浸水状況をシミュレーションにより予測したものです。
- この防災マップをご使用の際は、支川の氾濫、想定を超える降雨、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がありますので十分注意しましょう。
- 浸水ランクの目安 想定した大雨の規模(岩木川流域の24時間雨量279mm)

5.0m 以上の区域	2 階の屋根まで浸水する程度
3.0～5.0m 未満の区域	2 階が浸水する程度
0.5～3.0m 未満の区域	1 階が浸水する程度
0.5m 未満の区域	大人の膝までつかる程度



2

洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害が発生するおそれがある場合、その旨を注意して行う。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害が発生するおそれがある場合、その旨を警告して行う。

水位周知を行う河川

- 岩木川については、避難判断水位、氾濫危険水位が設定されています。これらの水位に達した場合、知事は関係市町村やマスコミを通じてお知らせします。

3

避難時の注意点

①安全で動きやすい服装を

- ・ヘルメットやずきん等で頭を保護する。
 - ・裸足で避難しない。脱げにくい運動靴で避難する。
- ※長靴は水が溜まると動きにくくなるのではない！

②足元に注意

- ・水の深さに注意する。
- ・水があふれたときは、マンホールや側溝、石などが危険。杖や長い棒で進行方向を確認しながら歩くようにしましょう。

③隣近所で声を掛けあって避難

- ・単独行動はしない。
- ・はぐれないようロープで互いの体を結んで流されないようにしましょう。

④要配慮者の安全確保

- ・病人や高齢者などは背負って避難する。
- ・子供は大人が手をつないで避難させる。その際、浮き袋を付けるようにしましょう。

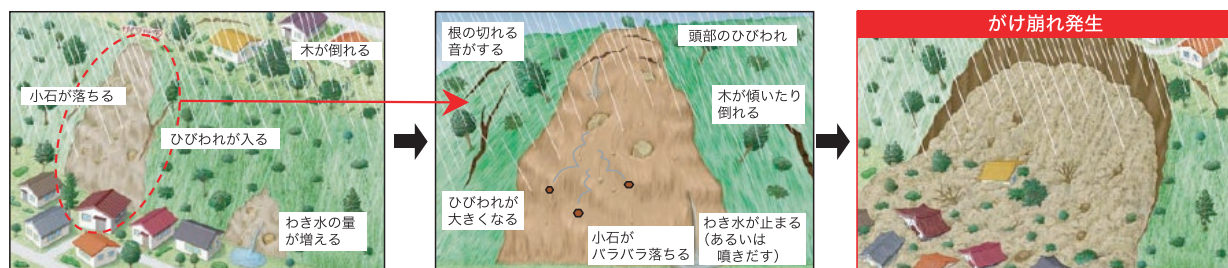
土砂ハザード情報について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、(村総務課 電話 85-2111(代))へ連絡するとともに、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日ごろから危険箇所・避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



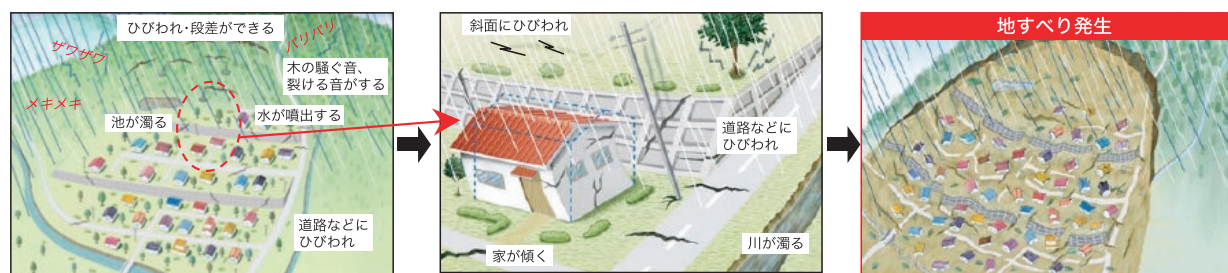
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害警戒情報について

●土砂災害警戒情報とは

大雨による土砂災害発生が高まった時に、村が防災活動や住民等への避難指示等の災害応急対応を適時適切に行えるように支援すること、また住民の自主避難判断に役立てることを目的として、県と青森地方気象台が共同し作成・発表する情報です。

●土砂災害警戒情報の発表

県等が発表する土砂災害警戒情報を受け、村は、気象状況、前兆現象、青森県土砂災害危険箇所図(県の補足情報)や土砂災害警戒判定メッシュ情報(補足情報)の危険度指数等も併せて総合的に判断し、住民への避難情報等を提供します。また、住民への情報伝達は、防災行政無線や緊急速報メール(エリアメール)等を活用し、速やかに伝達します。

危険箇所内の重要性の高い箇所について

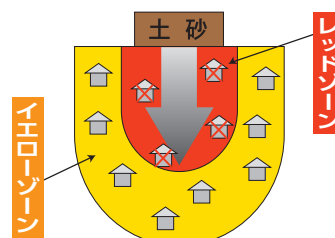
土砂災害防止法に基づき、青森県が計画的に基礎調査を実施し、危険箇所内の重要性の高い箇所について、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定が行われています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域



地震対策 地震発生!そんなときどうする

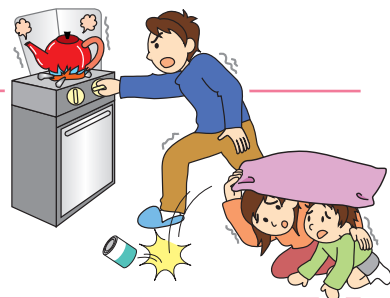
地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- すぐに火を消せるときは火を消す
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 非常時持出品を準備する



3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に
声をかけよう

- 要配慮者の安全確保
- 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか
- ケガ人はいないか

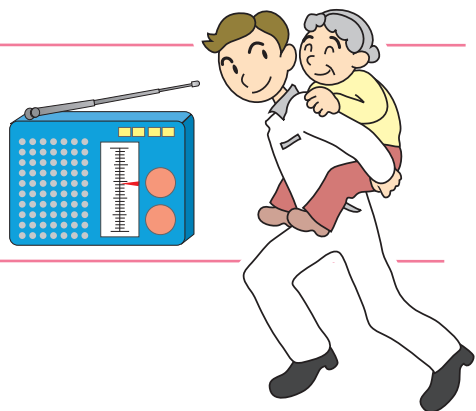
出火防止
初期消火

- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- 消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく

5分

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ●災害・被害情報の収集
- 余震に注意する ●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



10分
数時間
3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 救出・救護活動 ●無理な行動はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウやショーケースなどから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

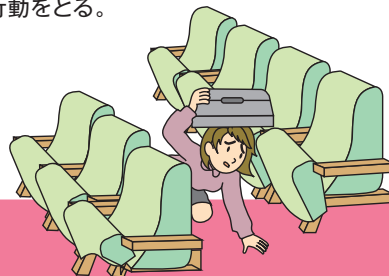


集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

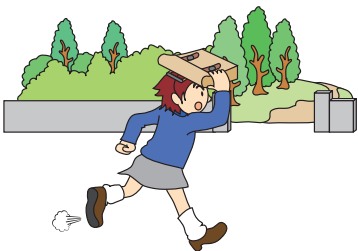
- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示に従う。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがいないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に近づかない。

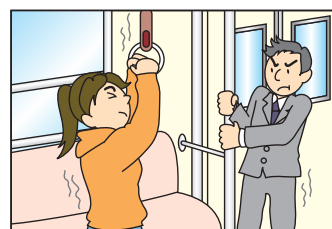


車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



わが家の防災対策&チェック

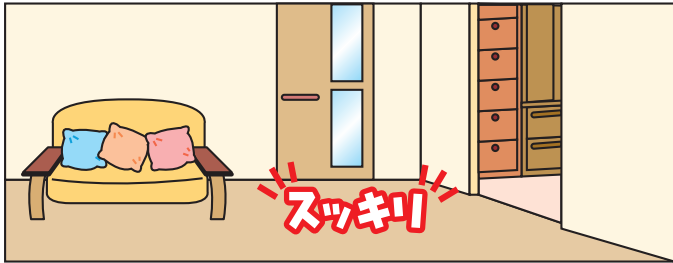
家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

1

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



2

□ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



3

□ 家具の転倒を防ぐ

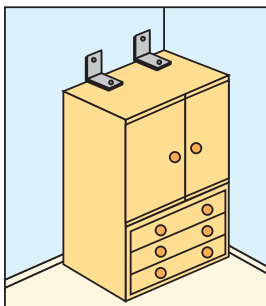
家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

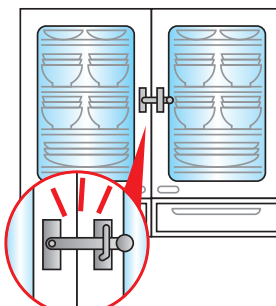
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



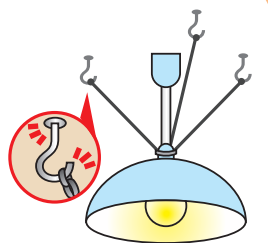
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



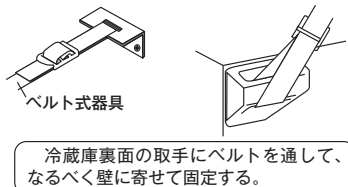
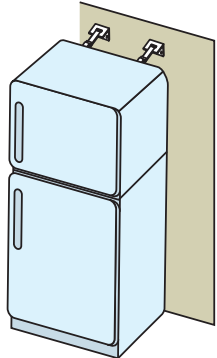
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。



冷蔵庫

転倒防止用ベルトで固定します。



冷蔵庫裏面の取手にベルトを通して、なるべく壁に寄せて固定する。

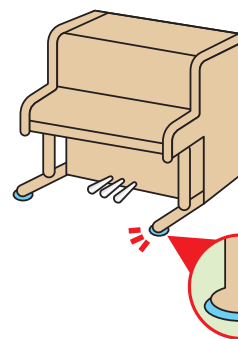
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上など、高い位置はさける)。



ピアノ

転倒防止専用金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

□ 屋根

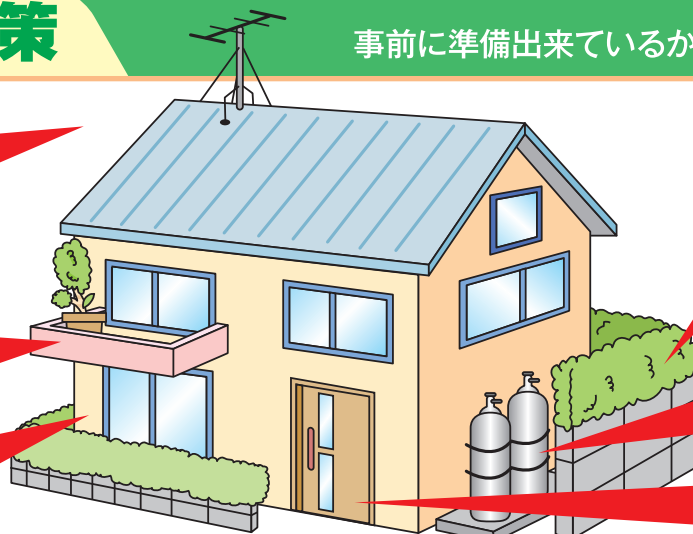
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



□ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

□ 非常口の確保

マイ・タイムライン

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

必ず取り組みましょう

ハザードマップ(11～24ページ)で自分の家がある地区(住所)に危険区域があるか確認しましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害、岩木山噴火による被害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある地区(住所)に「土砂災害警戒区域」・「洪水浸水想定区域」・「岩木山噴火の影響」のいずれかの色が塗られていますか？

「洪水」・「土砂災害」・「岩木山噴火」について原則として避難の必要はありませんが、地図を確認し、周り比べて低い土地(過去の洪水での浸水範囲)や崖のそばなどにお住まいの方は、必要に応じて避難行動をとってください。

はい

災害の危険があるので、原則として※、自宅の外に避難が必要です。

例外

岩木山噴火については立退き避難が必要です。

※浸水の危険があっても、

①浸水する深さよりも高いところにいる

②浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

※土砂災害の危険があっても、十分堅牢な建物の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

はい

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

洪水や土砂災害に関する警戒レベル 3 が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

洪水や土砂災害に関する警戒レベル 3 が出たら、村が開設している指定緊急避難場所に避難しましょう

(岩木山の場合は噴火警戒レベル4)

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

洪水や土砂災害に関する警戒レベル 4 が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

洪水や土砂災害に関する警戒レベル 4 が出たら、村が開設している指定緊急避難場所に避難しましょう

(岩木山の場合は噴火警戒レベル5)

※避難する場合には 26 ページの「災害時の感染症対策」をふまえて避難しましょう。

西目屋村避難所・避難場所一覧

避難が必要になったときにはまず「避難場所」へ、その後は「避難所」へと状況に応じて速やかに行動できるように心がけましょう！

令和4年1月現在

No.	避難対象地区	施設名	所在地	掲載マップ	電話番号	指定緊急避難場所 (災害の危険から逃げるための場所) ○避難可能 ×避難不可					指定避難所
						洪水	土砂	火事	地震	火山	
①	田代地区	西目屋村小学校体育館	田代字稲元 121-1	1・2	85-2260	○	○	○	○	○	
②	田代地区	中央公民館	田代字稲元 143	1・2	85-2858	○	○	○	○	○	○
③	杉ヶ沢地区	杉ヶ沢地区研修センター	杉ヶ沢宮崎 5	1		○	○	○	○	○	
④	白沢地区・大秋地区	大白公民館	大秋字開野 58-11	1	85-2374	○	○	○	○	○	
⑤	村市地区	村市いこいの館	村市字稲葉 213-1	2	85-3113	○	○	○	○	○	
⑥	藤川地区	藤川集会所	藤川字瀬ノ上 85-3	3		○	○	○	○	○	
⑦	居森平地区	旧津軽ダム工事事務所監督員詰所	居森平字寒沢 21-2	3		○	○	○	○	○	

避難所、避難場所とは？

避難場所と避難所(正式には指定緊急避難場所及び指定避難所)については災害対策基本法に定められています。概要については以下の通りです。

避難所(指定避難所)

立ち退き避難や災害発生などにより自宅に戻れない人が一時的に生活する施設です。

避難場所(指定緊急避難場所)

火災・地震・洪水・土砂災害など災害の種類に応じて定めた身の安全を守るための広場や高台です。

福祉避難所(二次避難所)

避難所での生活が困難な高齢者や障がい者、妊産婦など、配慮を必要とする方を受け入れる施設です。

○開設する避難所は、災害の種類、程度によって、その都度村が決定します。

○福祉避難所は、避難生活の長期化に伴い、村(災害対策本部)が必要に応じて開設するものであるため、直接避難することとはご遠慮ください。

自宅の外へ避難する際の留意点

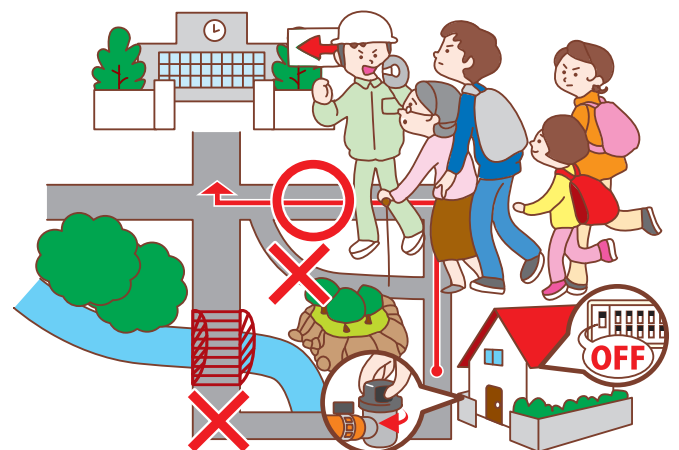
！ 避難するときの服装

- ヘルメット、帽子等をかぶる。
- 非常持ち出し袋はリュックサックに入れて背負う。
(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- やむをえず夜間に移動の際は懐中電灯を持つ。



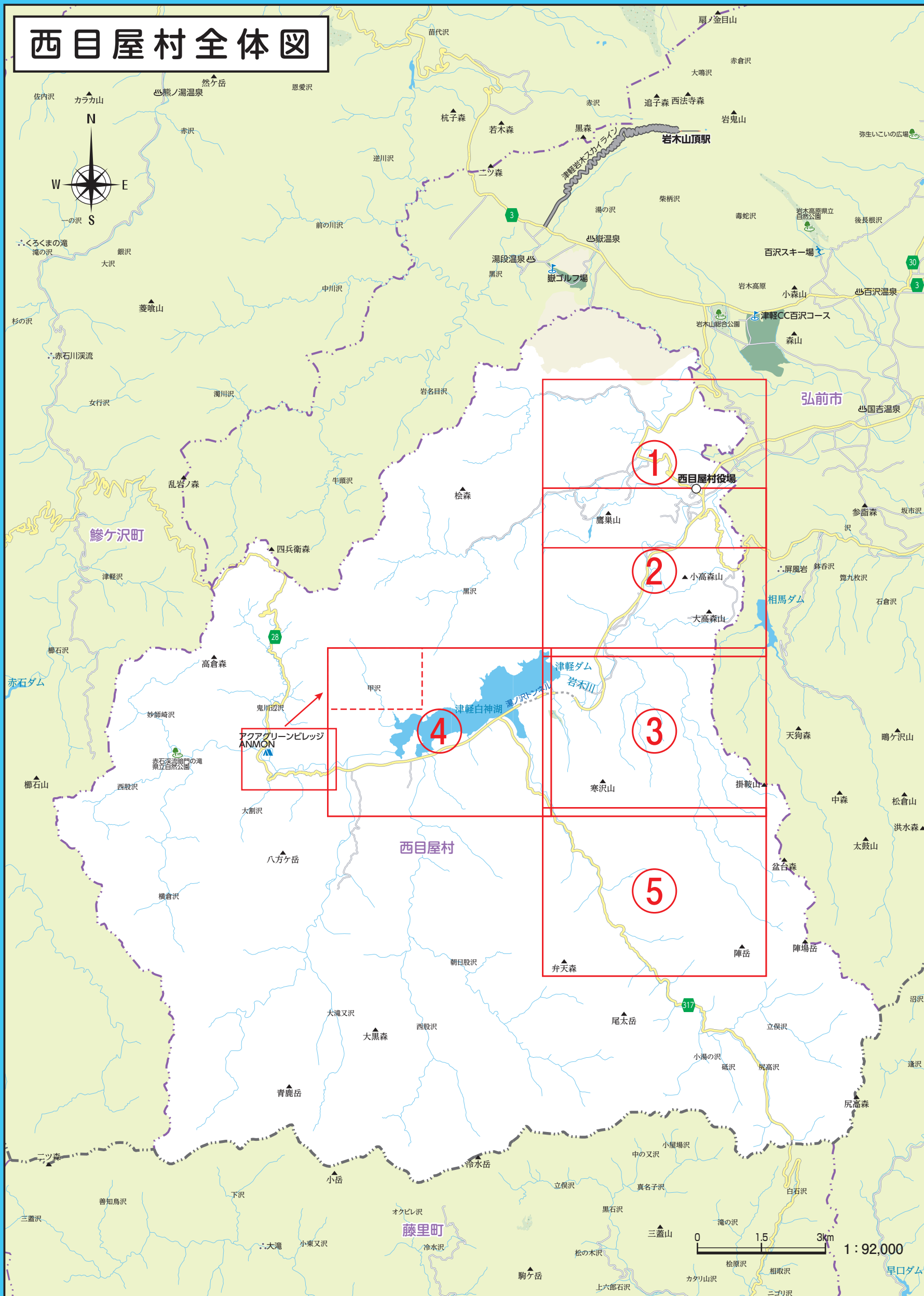
！ 避難時のポイント

- 自宅を離れる前にもう一度火元を確認する。
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす。
- 持ち出す荷物は最小限にする。
- 近所の人に声をかけ、複数人で行動する。
- 避難先への移動は、できる限り自動車・自転車は使用しない。
- 狭い道やブロック塀、自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける。
- 子ども、障がい者、高齢者など避難行動要支援者がはぐれないよう配慮をしながら避難する。



上記は一般的な避難留意点です。各災害に応じた留意点も、個別ページでご確認ください。

西目屋村全体図



1

2

土砂災害凡例

土砂災害
特別警戒区域
著しい危険が生じる
恐れのある区域

土砂災害
警戒区域
危険が生じる
恐れのある区域

河川浸水想定凡例

浸水深20.0m以上

浸水深10.0～20.0m未満

浸水深5.0～10.0m未満

浸水深3.0～5.0m未満

浸水深0.5～3.0m未満

浸水深0.5m未満

浸水深の表示と配色は
「洪水浸水想定区域図マニュアル
(国土交通省・国土技術政策総合
研究所)」による

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難
場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難
場所についての詳細は、9ペー
ジをご覧ください

11

12

	1	
	2	
4	3	

土砂災害凡例

土砂災害
特別警戒区域
著しい危険が生じる
恐れのある区域

土砂災害
警戒区域
危険が生じる
恐れのある区域

河川浸水想定凡例

浸水深20.0m以上

浸水深10.0～20.0m未満

浸水深5.0～10.0m未満

浸水深3.0～5.0m未満

浸水深0.5～3.0m未満

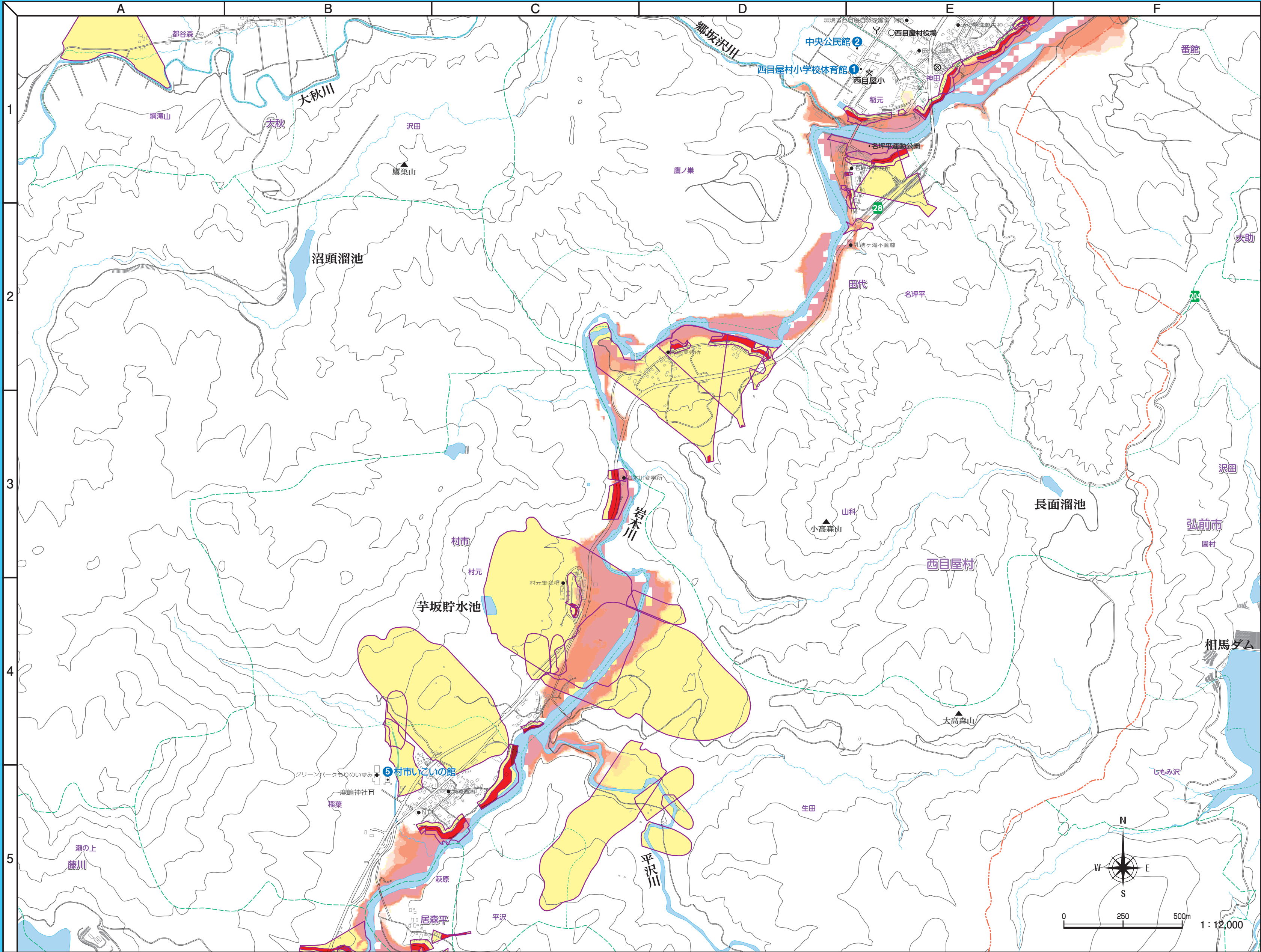
浸水深0.5m未満

浸水深の表示と配色は
「洪水浸水想定区域図マニュアル
(国土交通省・国土技術政策総合
研究所)」による

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難
場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難
場所についての詳細は、9ペー
ジをご覧ください



	2	
4	3	
	5	

土砂災害凡例

**土砂災害
特別警戒区域**
著しい危険が生じる
恐れのある区域

土砂災害
警戒区域
危険が生じる
恐れのある区域

河川浸水想定凡例

浸水深20.0m以上

浸水深10.0~20.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深0.5m未満

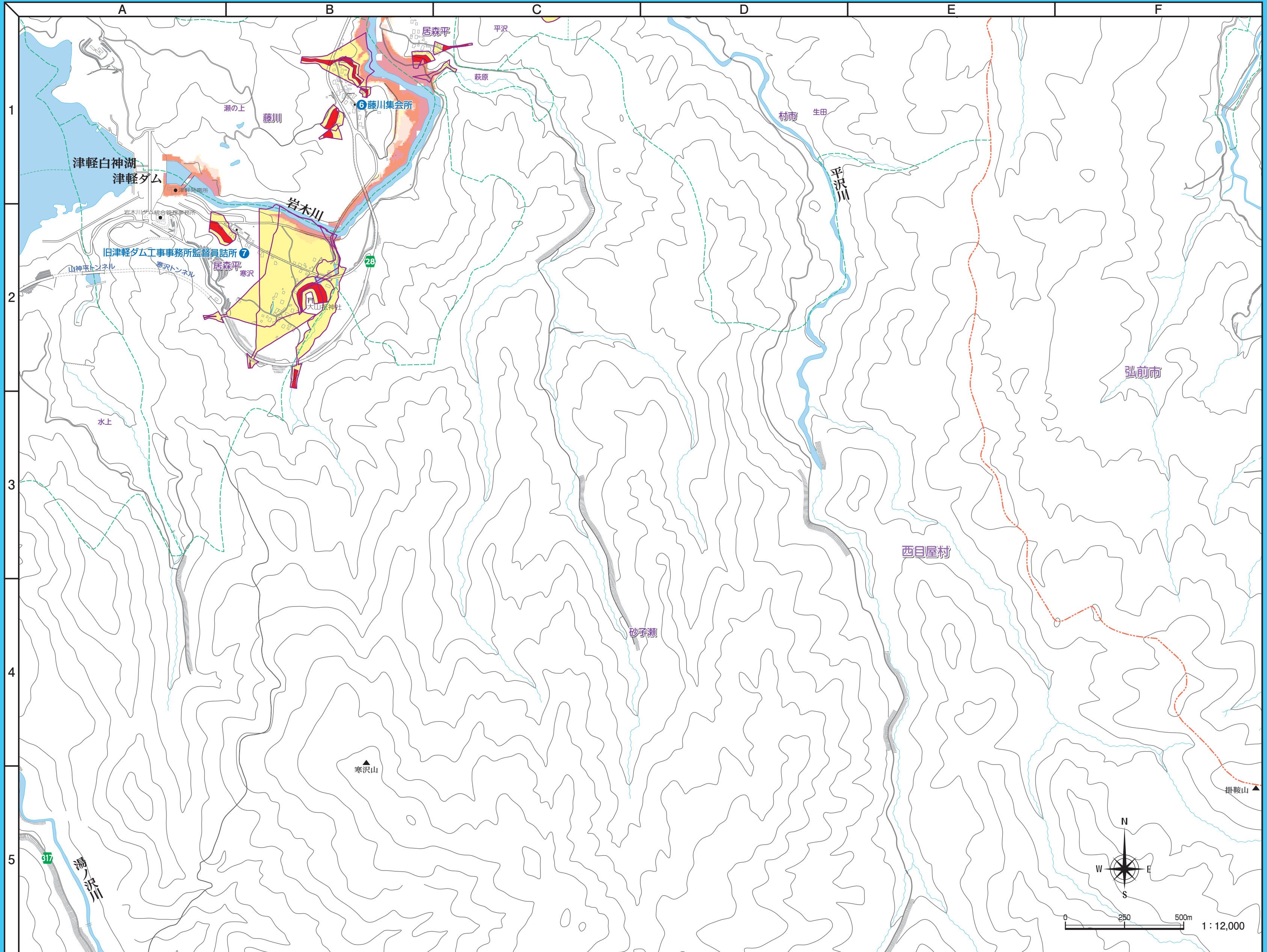
浸水深の表示と配色は
「洪水浸水想定区域図マニュアル
(国土交通省・国土技術政策総合
研究所)」による

指定避難所

指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難
場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難
場所についての詳細は、9ペー
ジをご覧ください



土砂災害凡例

土砂災害
特別警戒区域

著しい危険が生じる
恐れのある区域

土砂災害
警戒区域

危険が生じる
恐れのある区域

河川浸水想定凡例

浸水深20.0m以上

浸水深10.0～20.0m未満

浸水深5.0～10.0m未満

浸水深3.0～5.0m未満

浸水深0.5～3.0m未満

浸水深0.5m未満

浸水深の表示と配色は
「洪水浸水想定区域図マニュアル
(国土交通省・国土技術政策総合
研究所)」による

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難
場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難
場所についての詳細は、9ペー
ジをご覧ください

17

18

土砂災害凡例

土砂災害
特別警戒区域
著しい危険が生じる
恐れのある区域

土砂災害
警戒区域
危険が生じる
恐れのある区域

河川浸水想定凡例

浸水深20.0m以上

浸水深10.0～20.0m未満

浸水深5.0～10.0m未満

浸水深3.0～5.0m未満

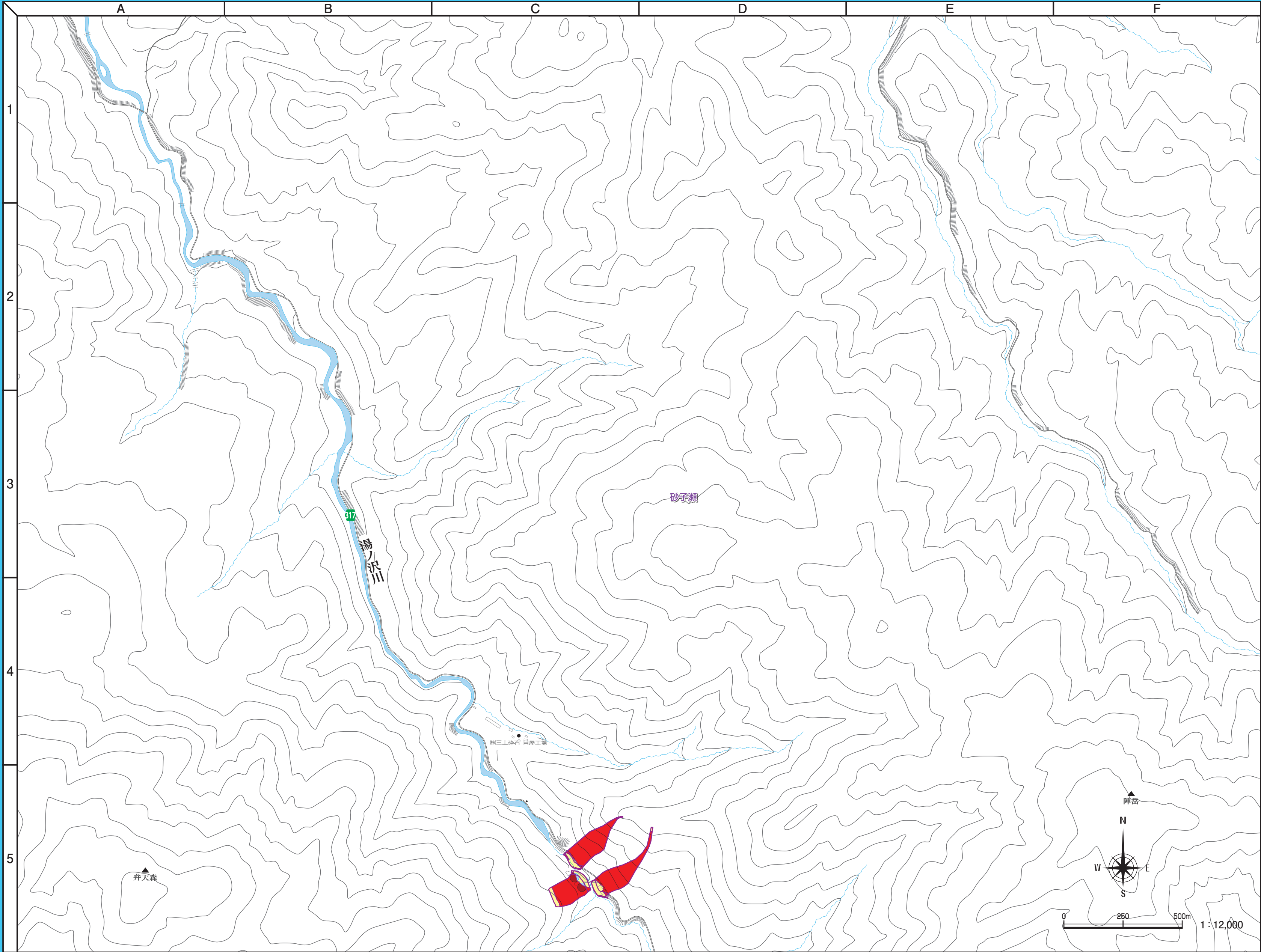
浸水深0.5～3.0m未満

浸水深0.5m未満

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難
場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難
場所についての詳細は、9ペ
ージをご覧ください



ため池ハザードマップについて

このマップは、農業用ため池が大雨や地震等の災害により、万が一にも堤が壊れ、皆さんの地域にため池の貯水が流出した場合を想定して作成したものです。

豪雨や大地震時には特に注意し、浸水想定区域で居住または作業を行っている方は、速やかに避難が必要です。

ため池の貯水は、流出してしまうと徐々に水は引きますが、ため池の周辺には沢や川があるため、継続して雨が降っている場合は完全に水が引くまで避難してください。

万一、安全な場所に避難できない場合でも、生命を守る最低限の行動として、近くで周囲の建物より比較的高い建物（鉄筋コンクリート等の堅固な建物）の2階以上に避難するようにしてください。

【ため池決壊のメカニズム】

○豪雨によるため池の被災形態

区分	被災形態	被災メカニズム
越流破壊		豪雨により、貯水位が急激に上昇し、堤体を超えて流れ出すと、下流斜面を流下することによって、破壊する場合があります。 また、貯水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、強度が低下して破壊する場合があります。
すべり破壊		貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面部の強度が低下することによって、法面部ですべりが発生し破壊する場合があります。
浸透破壊		堤体内が劣化して、水を遮る機能が低下すると、貯水位が上昇した時に堤体の中の水圧も上昇して強度が低下し、破壊する場合があります。 また堤体内に上流から下流に向かう水みちが発生し破壊する場合があります。

○地震によるため池の被災形態

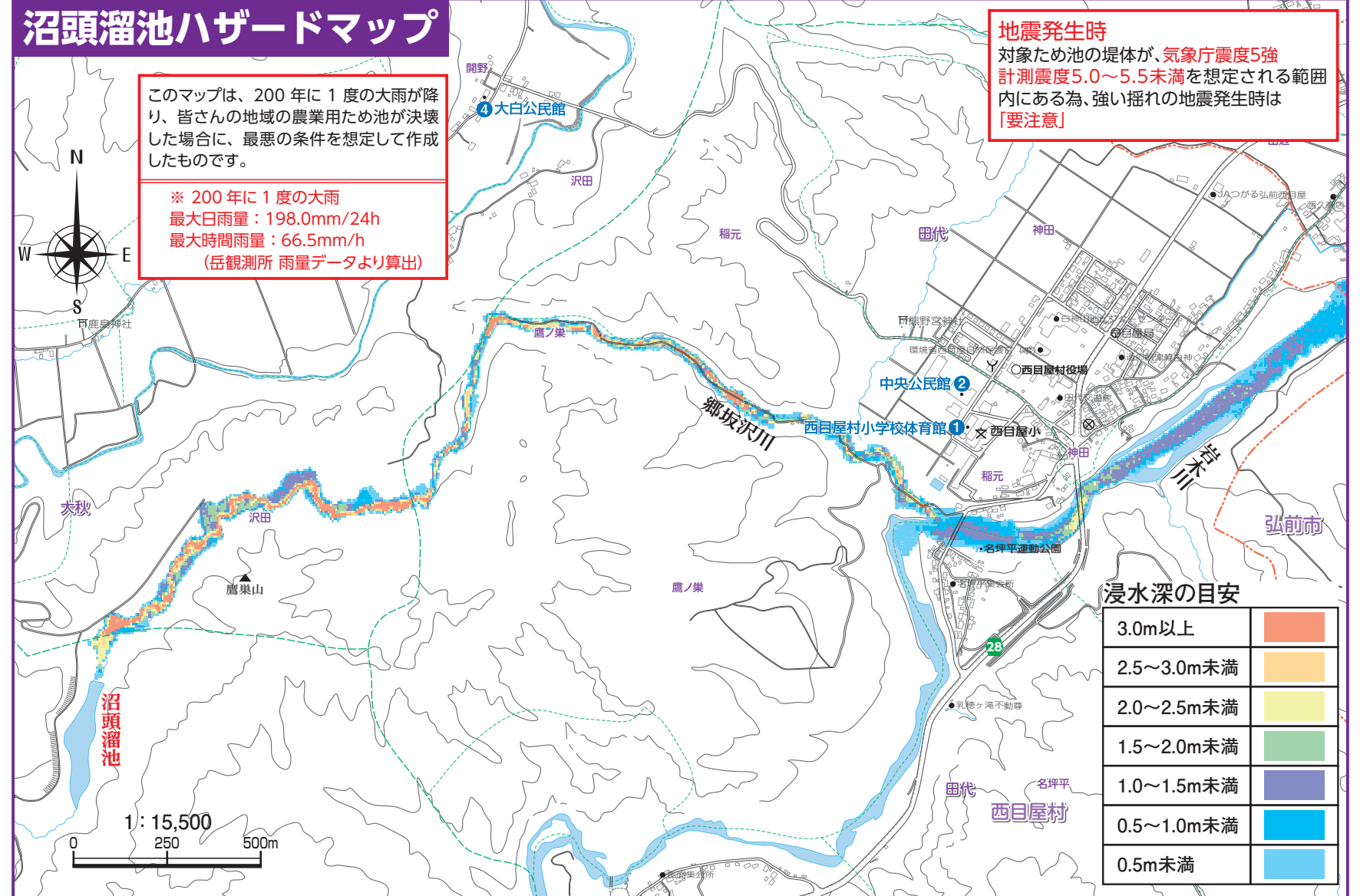
区分	被災形態	被災メカニズム
クラック		堤体の頂部などにクラック(亀裂)が発生する場合があります。 堤体の上下流方向に生じるクラック(亀裂)は水みちとなることがあり、特に注意が必要である。
沈下		堤体の形状をほぼ保ち、クラック(亀裂)などを伴いながら堤体が沈下する場合があります。多くは軟らかい地盤で発生している。
斜面崩壊		堤体法面の上部が沈下し、下部がはらんで変形が生じる場合があります。
斜面すべり		地震動により堤体の法面にすべりが発生する場合があります。
崩壊		堤体や地盤が大きく変化し、崩壊する場合があります。決壊に至ることが多く、堤体や基礎地盤の液状化によるものと考えられる。

沼頭溜池ハザードマップ

このマップは、200年に1度の大雨が降り、皆さんの地域の農業用ため池が決壊した場合に、最悪の条件を想定して作成したものです。

※ 200年に1度の大雨
最大日雨量：198.0mm/24h
最大時間雨量：66.5mm/h
(岳観測所 雨量データより算出)

地震発生時
対象ため池の堤体が、気象庁震度5強
計測震度5.0～5.5未満を想定される範囲
内にある為、強い揺れの地震発生時は
「要注意」



浸水深の目安	
3.0m以上	
2.5～3.0m未満	
2.0～2.5m未満	
1.5～2.0m未満	
1.0～1.5m未満	
0.5～1.0m未満	
0.5m未満	

長面溜池ハザードマップ

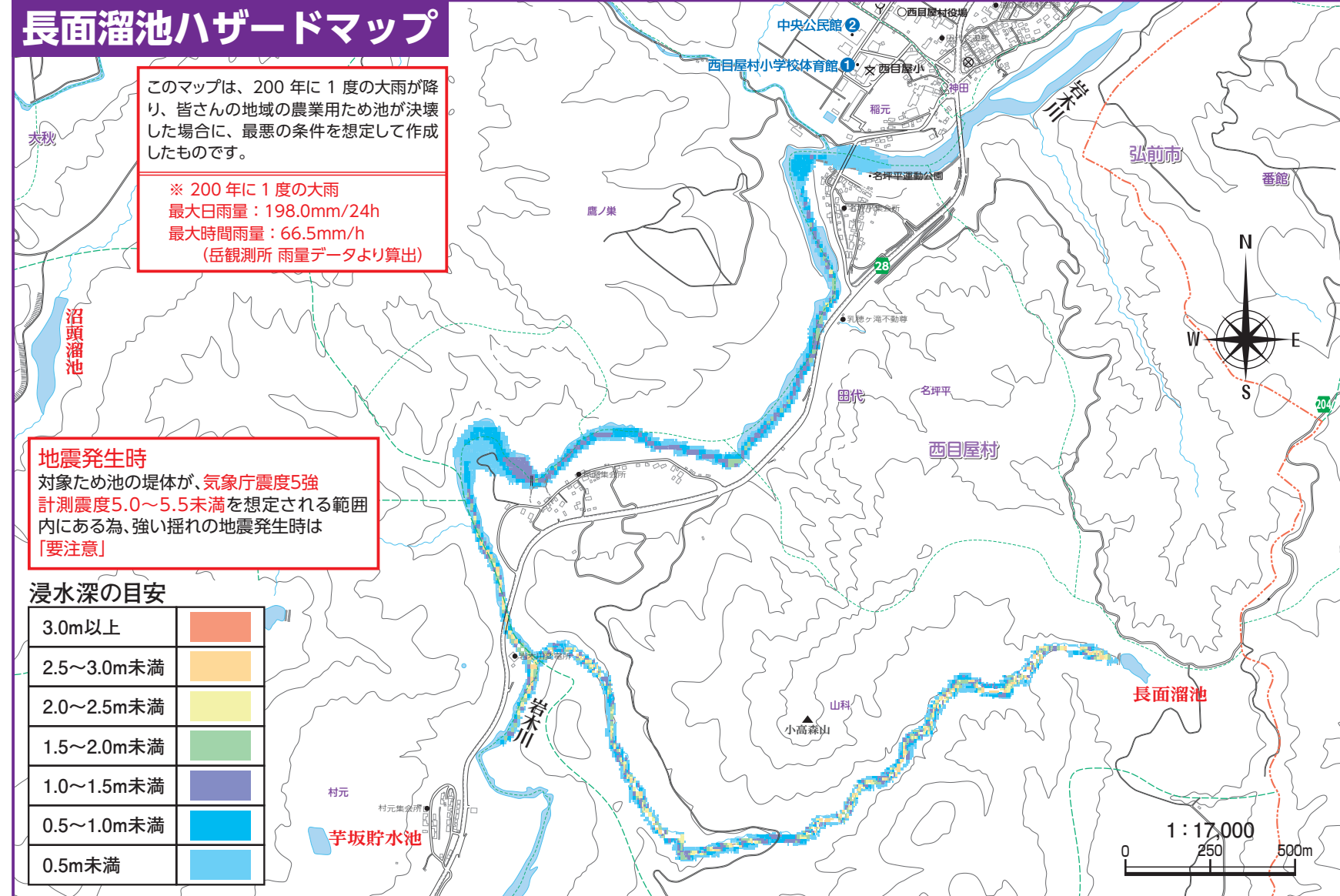
このマップは、200年に1度の大雨が降り、皆さんの地域の農業用ため池が決壊した場合に、最悪の条件を想定して作成したものです。

※ 200年に1度の大雨
最大日雨量：198.0mm/24h
最大時間雨量：66.5mm/h
(岳観測所 雨量データより算出)

地震発生時
対象ため池の堤体が、気象庁震度5強
計測震度5.0～5.5未満を想定される範囲
内にある為、強い揺れの地震発生時は
「要注意」

浸水深の目安

3.0m以上	
2.5～3.0m未満	
2.0～2.5m未満	
1.5～2.0m未満	
1.0～1.5m未満	
0.5～1.0m未満	
0.5m未満	

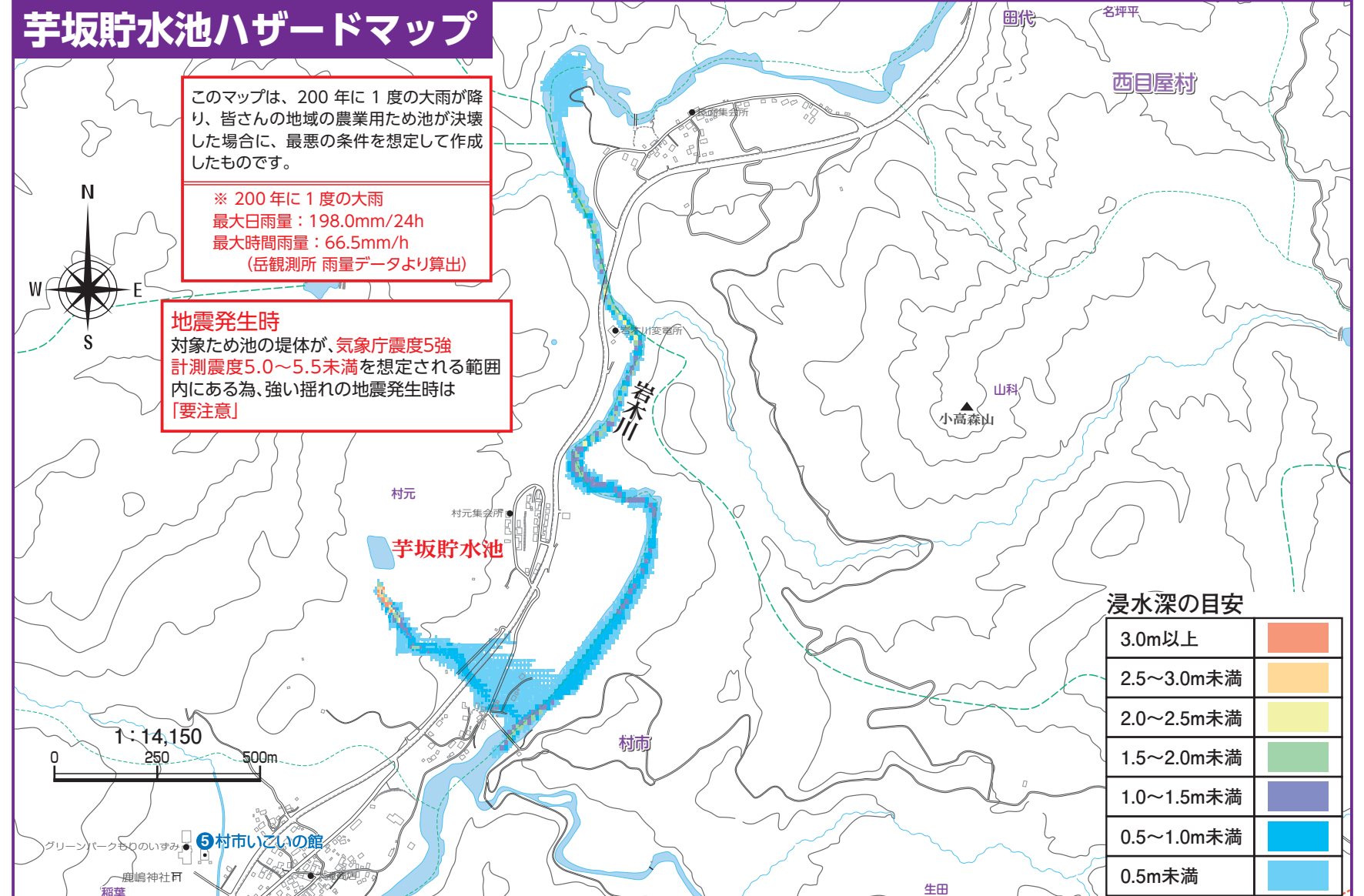


芋坂貯水池ハザードマップ

このマップは、200年に1度の大雨が降り、皆さんの地域の農業用ため池が決壊した場合に、最悪の条件を想定して作成したものです。

※ 200年に1度の大雨
最大日雨量：198.0mm/24h
最大時間雨量：66.5mm/h
(岳観測所 雨量データより算出)

地震発生時
対象ため池の堤体が、気象庁震度5強
計測震度5.0～5.5未満を想定される範囲
内にある為、強い揺れの地震発生時は
「要注意」



浸水深の目安	
3.0m以上	
2.5～3.0m未満	
2.0～2.5m未満	
1.5～2.0m未満	
1.0～1.5m未満	
0.5～1.0m未満	
0.5m未満	

岩木山火山ハザードマップ(西目屋村)

記号の色と意味

青枠は水蒸気噴火での発生を想定

火口

想定火口範囲

噴石

降灰

火口噴出型泥流

噴火の直後には…

降灰後の土石流

スカイライン・登山道・リフト施設等の破壊

想定火口の円内では、どこからでも噴火が発生する可能性があります。

人体への被害、リフト施設等の破壊

噴石が弾道を描いて飛び散る範囲を、全方向について示しています。

健康被害、施設等の崩壊、交通障害、農作物・森林等の被害

風下の場合の予想降灰層厚を、全方向について示しています。

火口噴出型泥流

噴火にともなって、火口から泥水が溢れ出す場合の氾濫する範囲を示しています。

人体への被害、家屋・畑・道路等への被害

噴火後の降雨による土石流の予想氾濫範囲を示しています。土石流は降灰があった渓流で発生しやすくなります。

マグマ噴火では水蒸気噴火の現象に加えて、以下の現象の発生を想定

火砕流・火砕サージ

雪の多い時期には…

融雪型火山泥流

人体への被害、施設等の破壊、山火事、農作物・森林等の被害

色のやや濃い部分
火砕流の土砂(本体)の流下範囲を示しています。

色の薄い部分
熱風(火砕サージ)の到達範囲を示しています。

人体への被害、家屋・畑・道路等への被害

融雪型火山泥流が流下し、氾濫する範囲を示しています。

火砕流が流下した斜面で雪が融けて発生します。全ての方向で同時に発生するわけではありません。

岩木山で発生が予想される噴火について水蒸気噴火の場合とマグマ噴火の場合の図を示しています。

水蒸気噴火の場合(予想図)

噴火警戒レベル2の段階から発生する現象と影響範囲

この図は降灰・噴石・火口噴出型泥流、降灰後の土石流の影響を受ける全ての方向の予想区域について示しています。

マグマ噴火の場合(予想図)

噴火警戒レベル3以上の段階で発生する現象と影響範囲

火砕流・火砕サージはレベル4以上で発生
融雪型火山泥流はレベル4以上で、かつ、積雪期にのみ発生

この図は火砕流・火砕サージ・融雪型火山泥流の影響を受ける全ての予想区域について示しています。一回の噴火でこの図に示した全ての方向に現象が流下するわけではありません。

- 西目屋村の居住地域へは、水蒸気噴火時・マグマ噴火時の直接的な影響は想定されていません。
- 風向きによっては、村内に火山灰が降ってくる可能性があります。

水蒸気噴火で発生する現象の特徴

- 岩木山の水蒸気噴火で発生が予想される現象として、降灰、噴石、火口噴出型泥流、降灰後の土石流があります。左の図ではこれらの現象により予想される影響範囲を示しています。
- このうち居住地域に影響が大きい現象は、岩木山の風下方向に降る降灰、降灰があった斜面から降雨後に発生する降灰後の土石流、火口から泥水が流れ出す火口噴出型泥流です。
- 降灰があると、降り積もった火山灰が斜面の地表面をコーティングするように覆ってしまうため、雨水が地面に染み込み、少量の雨でも雨水が短時間で谷に集まって流れるため土石流が発生しやすくなります。

水蒸気噴火の場合(拡大図)

(西目屋村の居住地域には噴火時の直接的な影響は想定されていません。)

マグマ噴火の場合(西目屋村周辺)

(西目屋村の居住地域には噴火時の直接的な影響は想定されていません。)

【西目屋村における火山災害対応について】

村では、火山噴火災害発生時には「西目屋村地域防災計画」に基づき災害対応を行います。詳細については村ホームページ（アドレス：https://www.nishimeya.jp/）に掲載していますので、そちらをご覧ください。

【掲載ページ】トップページ《くらし・手続き》

→《安全・防災》防災・災害時の対応

→《西目屋村地域防災計画（平成27年3月全面改訂）の公表について》

→《西目屋村地域防災計画 総則・風水害等災害対策編》.PDF

第5章 雪害対策、火山災害対策、事故災害対策計画 第2節 火山災害対策

岩木山の噴火警戒レベル

平成28（2016）年7月運用開始

種別	名称	対象範囲	レベル (コード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・山客等への対応	想定される現象等
特別 警報	噴火警報 (居住地域)	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●融雪型火山泥流または火砕流・火砕サージが発生、あるいは切迫している。 ●噴火の規模や位置が特定できない場合に、融雪型火山泥流または火砕流・火砕サージの可能性がある。 【過去事例】 事例なし
			4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備等が必要。要配慮者及び特定地域の避難等が必要。	●融雪型火山泥流または火砕流・火砕サージを伴う噴火が予想される。 【過去事例】 事例なし
警報	噴火警報 (火口周辺)	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口から居住地域近くまでの範囲への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等が必要。	●マグマ噴火の発生が予想される。 ●融雪型火山泥流及び火砕流・火砕サージが予想されない噴火の発生。 【過去事例】 1600年の噴火：噴石、火砕流、泥流 1618年の噴火：降灰 1782年冬～83年春の噴火：噴煙、噴石、火口列生成 1845年の噴火：噴煙・硫黄涌出 1863年の噴火：噴石
			2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難準備等が必要。	●水蒸気噴火の発生が予想される。 【過去事例】 1978年の活動：赤倉沢で噴気活発化
			1 (火口内等) (ことに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内等が火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火口内での少量の噴気・火山ガス等の発生。
予報	噴火予報	火口内等				

※特定地域とは、警戒範囲に隣接している弘前市常盤野町会を指す。噴石、火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流で避難道路などが通行不能となるおそれがある区域では、早期避難等が必要。
※火口とは、岩木山火山噴火緊急防災対策検討計画で想定された火口をいう。

岩木山の最新の活動

岩木山の最新の火山活動は、気象庁の以下のWebページで見ることができます。

火山活動の状況（岩木山）
https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/202.html

火山に関する主な発表情報（気象庁）

噴火時や火山活動が活発な時に発表
(主な発表情報を示しています)

噴火速報

- 登山者や火山周辺の住民に、噴火したことを迅速にお伝えする情報です。

火山の状況に関する解説情報

- 火山性地震や微動の回数、噴火等の状況や警戒事項について、必要に応じて定期的または臨時に解説する情報です。

降灰予報

- 噴火後に、どこに、どれくらいの火山灰が降るかにについて、降灰の厚さを3階級に区分した予報を発表します。
- 噴火後速やかに発表される「降灰予報（速報）」とその後に発表される「降灰予報（詳細）」があります。また、噴火警報が発表されているときは「降灰予報（定時）」が3時間毎に発表されます。

気象庁が発表する火山に関する情報(上記以外を含む)

気象庁が発表する火山に関する情報や資料（上記以外を含む）は、以下のWebページで見ることができます。

気象庁ホームページ > 知識・解説 > 火山
https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/vol_know.html

マグマ噴火で発生する現象の特徴

- マグマ噴火は、噴火警戒レベル3以上のときに発生する可能性があります。水蒸気噴火の場合と同様に、山体斜面に降灰があった場合、少量の降雨でも土石流が発生しやすくなります。
- マグマ噴火で発生する現象のうち、火砕流・火砕サージはレベル4以上で発生する想定です。また、融雪型火山泥流はレベル4以上で、かつ、積雪期にのみ発生する想定です。
- 火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に流下してくる場合、甚大な被害が発生すると予想されます。

岩木山噴火時の避難について

- この火山防災マップで想定した岩木山噴火時の影響範囲（予想図）では、西目屋村の居住地域における避難対象地区はありません。
- 以下の施設は、岩木山噴火時に弘前市、つるぎ沢町からの避難者を受け入れることがあります。

- ・杉ヶ沢地区研修センター
- ・西目屋村中央公民館
- ・西目屋小学校体育館

23

24

わが家の防災メモ

記入日

わが家の避難所

月

家族の集合場所

日

災害時の緊急連絡先

家族の名前	生年月日	血液型	既往症	会社・学校の電話番号

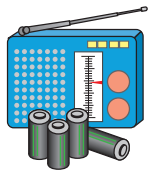
非常時持出品の準備&チェック

災害が発生し、避難する場合はもちろん、避難の必要がない場合でも、電気や水道、ガスなどが使用できない場合もあります。万が一の場合に備えて、家族で話し合い、災害時の非常時持出品や備蓄品を準備しておきましょう。

非常時持出品(例)

準備ができているか、チェック☑しましょう。

携帯ラジオ



- ☐ ラジオ
- ☐ 電池(多めに用意)

救急医薬品



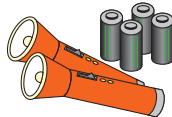
- ☐ 処方薬
- ☐ 絆創膏
- ☐ 傷薬
- ☐ 包帯
- ☐ 風邪薬
- ☐ 胃腸薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 消毒薬

貴重品



- ☐ 現金
- ☐ 預金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 免許証
- ☐ 健康保険証
- ☐ 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- ☐ 電池(多めに用意)

懐中電灯



非常食品

火を通さなくて食べられるもの、食器など



- ☐ カンパン
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 粉ミルク・離乳食
- ☐ 缶切り・栓抜き
- ☐ 紙皿・紙コップ
- ☐ 水筒
- ☐ 箸・スプーン等

その他



- ☐ 携帯電話充電器
- ☐ ヘルメット・軍手
- ☐ 布テープ
- ☐ ビニール袋
- ☐ ラップフィルム
- ☐ 防寒具(時季による)
- ☐ タオル
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 雨具
- ☐ ライター
- ☐ ハザードマップ(本書)
- ☐ 敷物
- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ マスク

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)生活できる準備ができているか、チェック☑しましょう。

飲料水



- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水したポリタンクなど

非常食品



- ☐ お米(アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

その他



- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など

ローリングストック法とは

- ・「備蓄食料」と問われると、大部分の人が「賞味期限の長い食料を大量に買って置く」と思いがち。
- ・間違いではないが、こんな失敗は？
 - 賞味期限が知らないうちに過ぎてしまった。
 - 賞味期限が近いので、続けて備蓄品を食べた。

その名のとおり、食べながら(ローリング)、備蓄(ストック)する方法。

1 備える

ベースとなる3日分の非常食を用意する。さらにもう2食分を非常用ケースに。

2 食べる

1ヶ月に1回程度、日を決めて非常食1食分を食べる

3 買い足す

食べた後、1食分を買い足して補充する。

4 食べなれたものを常備!

最初に用意した非常食は全て消費し、買い足した非常食とそっくり入れ替わる。

災害時の感染症対策

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう

新型コロナウイルス感染症等が収束しない中でも、
**災害時には、危険な場所にいる人は
避難することが原則です。**

知っておくべきポイント

- 避難とは[難]を[避]けること。
安全な場所にいる人まで避難場所に行く
必要はありません。
- 避難先は、小中学校・公共施設だけではありません。
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。
- 避難所に避難する場合は、マスク・消毒液・体温計を
できるだけ自ら携帯して下さい。
- 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。
やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の
状況等を十分確認して下さい。



新型コロナウイルス等の対策で非常持ちだし袋に加えたいもの

- ① マスク
- ② アルコール消毒液
- ③ ハンドソープ・固形石けん（家族もしくは自分用を持参・避難所では共用しない）
- ④ 使い捨てのビニール手袋（ドアノブなど多くの人が触れるものからの接触感染を防ぐため）
- ⑤ 使い捨てのビニールエプロンまたはゴミ袋（避難所運営に協力する際に使用）
- ⑥ 体温計（村で用意出来ない場合があるため。使い慣れたものを持参しましょう）
- ⑦ ティッシュ、ウェットティッシュ、ペーパータオル、ポリ袋（多めに必要）
- ⑧ 携帯トイレ（トイレは我慢してはいけません。避難所のトイレが使えない場合に備えましょう）



防災情報収集方法

国土交通省「防災情報提供センター」

- <https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho>
- 携帯電話から
<https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>

気象庁

- <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

青森地方気象台

- <https://www.data.jma.go.jp/aomori/index.html>

総務省消防庁

- <https://www.fdma.go.jp/>

西目屋村ホームページ（防災情報）

- <https://www.nishimeya.jp/kurashi/anzen/bousai/index.html>

あおもり防災ポータル

- <https://bousai.pref.aomori.lg.jp/>

青森県河川砂防情報提供システム

- <http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/>

青森県土砂災害警戒情報システム

- <https://www.dosya-keikai.pref.aomori.jp/>

青森県土砂災害警戒区域等マップ

- <http://www.sabomap.jp/aomori/>

災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルとは？

地震、風水害などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。

伝言の録音 171-1-被災地の方の電話番号

伝言の再生 171-2-被災地の方の電話番号

伝言内容(時間) 1伝言あたり30秒以内

伝言保存期間 災害用伝言ダイヤル(171)運用終了まで

伝言蓄積数 1電話番号あたり20伝言まで

利用可能電話 加入電話、INSネット(ダイヤル式を除く)、
公衆電話、ひかり電話(ダイヤル式を除く)

防災関係機関連絡先

西目屋村役場	0172-85-2111(代)
弘前消防署目屋分署	0172-85-3119
弘前地区消防事務組合消防本部	0172-32-5101
弘前警察署 西目屋警察官駐在所	0172-85-3110
弘前警察署	0172-32-0111

弘前保健所	0172-33-8521
青森河川国道事務所	017-734-4521(代)
岩木川ダム統合管理事務所	0172-85-3035(代)
中南地域県民局地域整備部	0172-32-1131
東北電力(停電・緊急時)	0120-175-366

西目屋村防災マップ 令和4年1月

発行 西目屋村総務課
青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田 57 番地
TEL 0172-85-2111
FAX 0172-85-3040

製作・著作 株式会社ゼンリン 青森営業所
青森市長島2丁目25番1号 太陽生命ビル5F
TEL 017-777-6261
FAX 017-735-5758

無断で複写、転載することをご遠慮ください。著作権者に無断で本誌の全部、または一部を複製及び転載することは、著作権法により禁止されています。

「この地図は、青森県が作成した測量成果を青森県知事の承認を得て使用したものである。(承認番号平成 31 年 1 月 9 日付け青林第 905 号)」
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R 2JHs 293 - 588 号」

本文中の地図は、弊社2020年2月発行の弘前市②(東目屋・岩木・相馬)・西目屋村住宅地図をもとに作成しています。また、住宅地図による現地調査情報、編集独自の細かな情報も加えて制作しています。

作成には細心の注意をはらい、編集作業を行っていますが、データ量は膨大であり、日々変化する現状と地図面が一致しない場合があります。また、目標物は見やすさを優先し、正式名称などを一部割愛して掲載しています。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。